

新フェローの紹介

石川 明彦 (いしかわ あきひこ) 氏

昭和16年10月25日生れ

〔現住所〕岩手県盛岡市愛宕町

〔学歴〕昭和42年3月

東京理科大学理学研究科修士課程修了

昭和43年9月 同大学理学研究科博士課程退学 平成3年理学博士

〔職歴〕

昭和43年10月 東京理科大学理学部助手

昭和49年4月 同工学部講師

昭和61年4月 岩手大学人文社会科学部助教授

平成5年4月 同教授

〔OR学会関係〕機関誌編集委員 昭和58～60年度、東北支部幹事 昭和63年度～平成5年度、同支部運営委員 平成6年度～現在、現本部研究普及委員・評議員

〔著書等〕栄養統計学綱要(共著、楨書店、1985)、学会誌論文3編、口頭発表18件、その他講演・論文等多数

石川氏は、待ち行列理論関係の研究、特に数値計算にかかわる分野において顕著な研究業績をあげられ、数多くの研究論文、研究発表を行なっておられる。本学会にあっては待ち行列研究部会の中心となって活動をされており、また、研究普及委員・評議員として、さらには東北支部役員・OR誌編集委員としても活躍され、本学会の運営と発展に、特に東北支部の発展に多大な貢献をされており。

今井 兼一郎 (いまい かねいちろう) 氏

大正6年4月16日生れ

〔現住所〕東京都港区南青山

〔学歴〕昭和16年3月 東京大学工学部機械工学科卒業

昭和38年 工学博士

〔職歴〕

昭和16年4月 中島飛行機(株)入社

昭和22年4月 石川島重工業(株)入社



昭和56年 石川島播磨重工業(株)専務取締役、その後常任顧問を経て昭和62年退任。

昭和58年～63年 日本大学教授

昭和60年～平成3年 日本学術会議会員

昭和64年 (社)日本工業教育協会副会長就任、現在に至る。

その間、昭和54年 日本機械学会会長、昭和63年 日本品質管理学会会長を歴任

今井氏は、ジェットエンジン、品質管理、工学教育関係の論文、研究発表を数多く行なっており、本学会との関係では、昭和60年以降日本学術会議会員として、本学会が登録している日本学術会議経営工学研究連絡委員会の世話人の立場で、本学会の公的活動を通じての発展に多大な貢献をされています。

上田 亀之助 (うえだ かめのすけ) 氏

大正2年2月9日生れ

〔現住所〕東京都新宿区若葉

〔学歴〕昭和11年 上智大学商学部経済学科卒業

〔職歴〕

昭和11年 浅野物産(株)入社

財閥解体後は朝日物産・東京

通商に勤務し、主として貿易関係の業務に従事。

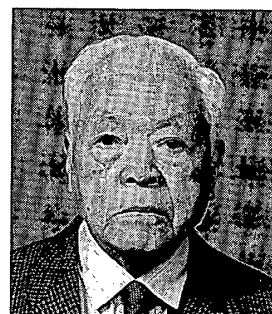
昭和43年 (有)上田イノベーション研究所設立

昭和44年度～平成7年度 杉野女子大学非常勤講師

〔OR学会関係〕評議員 昭和59～60年度、昭和55年度以降、経営コンサルタント研究部会、経営管理システム研究グループ、人間的グローバル経営システム研究グループ、日本の経営研究グループ、イノベーション研究グループ等の主査を歴任

〔著書等〕ファッションが着られるまで(関西衣生活研究会、1980)、その他雑誌への寄稿多数

上田氏は、欧米・東南アジアを含め8年間の海外勤務をも経てイノベーション研究所を設立、新製品・新技術の開発、マーケティング、イノベーション等を中心に経営コンサルタントとして活躍されており、本学会においても研究部会、研究グループの主査として長年にわたり活動され、本学会の発展に貢献されています。



大山 達雄 (おおやま たつお) 氏

昭和20年11月1日生れ

〔現住所〕栃木県宇都宮市高砂町

〔学歴〕昭和44年 東京大学工学部計数工学科卒業

昭和46年 同大学大学院工学系研究科応用部門修士課程修了

昭和52年 コーネル大学大学院工学部オペレーションズリサーチ部門博士課程修了 (Ph.D.)

〔職歴〕

昭和46年 (財)電力中央研究所入所

昭和55年 埼玉大学教養学部講師

昭和56年 同助教授

昭和61年 同大学院政策科学研究科助教授

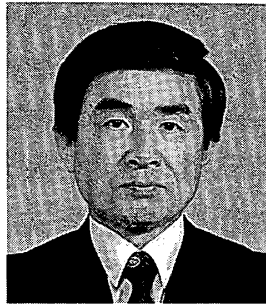
昭和63年 同教授

この間、千葉大学、長岡技術科学大学、東京大学、中央大学の非常勤講師、マサチューセッツ工科大学客員研究員、コーネル大学客員教授等を歴任

〔OR学会関係〕第15回 事例研究奨励賞授賞 平成7年、機関誌編集委員 昭和52~53年度・平成8年度、論文誌編集委員 昭和55~56年度・平成2年度~現在、研究普及委員 昭和56~59年度、理事 (国際) 平成5~6年度、評議員 昭和57~58年度・平成8年度、その他庶務幹事、IAOR 委員長、国際委員等を歴任

〔著書等〕整数計画法と組合せ最適化 (共著、日科技連出版社)、グラフ・ネットワーク・マトロイド (共著、産業図書)、アルゴリズム (丸善)、最適化モデル分析 (日科技連出版社)、論文65編、発表多数

大山氏は、Ph.D論文において部分ラテン方格の拡張可能性問題を研究対象として以来、離散的最適化を中心とする数理計画法の理論と応用に関する研究を積極的に進めておられ、これまで電気事業における諸問題の数理計画モデルを用いた分析として設備投資計画の作成、限界費用分析、エネルギー需給分析等を行い、最適化理論と手法の電気事業への適用に成果を上げておられます。また近年においては議員定数配分問題、都市交通量のモデル分析、最適資源配分問題等にも興味を持たれ、数理計画法の理論と応用の両面において多くの研究成果を発表しておられます。また、オペレーションズリサーチにおける理論と応用を区別する必要はないという考え方のもとに、両者の結合、統合を



目指しておられ、本学会の運営・発展にも各種委員、幹事、理事として多大な貢献をしてこられました。

忍田 和良 (おしだ かずよし) 氏

昭和8年9月25日生れ

〔現住所〕神奈川県鎌倉市玉縄

〔学歴〕昭和32年 東京理科大学理学部数学科卒業

昭和48年 マサチューセッツ工科大学大学院都市地域特別コース修了

〔職歴〕

昭和32年 日本通運(株)入社

昭和36年 (株)日通総合研究所出向

平成元年 同社取締役 経済研究部長

平成4年 同社常務取締役 経済研究部担当

平成6年 同社常務取締役 研究開発部担当

平成7年 退社 (参与)

同 年 朝日大学経営学部大学院経営学研究科教授
この間、相模工業大学 (現湘南工科大学) 非常勤講師等を歴任

〔OR学会関係〕機関誌編集委員 昭和58~62年度、理事 (研究普及) 昭和63年度~平成元年度、企業サロン企画委員 昭和63年度~現在、評議員 平成4~5年度、副会長 平成5~6年度、その他財政問題検討委員、広告委員、会員対策委員長等を歴任

〔著書等〕流通システム (共著、日本経済新聞社、1971)、物流ハンドブック (共著、ダイヤモンド社、1981)、物流システムと意思決定 (共著、中央経済社、1981)、他著書4冊、論文28編、発表・講演多数

忍田氏は、長年にわたりORの宝の山といわれる交通・流通・物流分野でのコンサルティングや調査・研究に従事し、ORアプローチの開発に不可欠な課題の発見や、OR思考による課題・対応策の検討等を進めてこられました。特に、企業や関連業界に対しテキストの編集・講習等によるORの普及に努められ、情報・交通企業6社によるTOR研究会は35年以上に及び、また学会員を核とした交通・流通関連の研究部会やグループの主査を務められています。平成2年度には、日通総合研究所の実施賞授賞窓口機能も担われました。

本学会においては、副会長・理事・評議員・委員を歴任され、さらには研究部会の中心的役割を果たされるなど、本学会の運営と発展に多大な貢献をされておられます。



加藤 直樹 (かとう なおき) 氏

昭和26年2月4日生れ

〔現住所〕兵庫県宝塚市逆瀬川

〔学歴〕昭和50年 京都大学
大学院工学研究科数理工学専攻
修士課程修了

昭和56年 工学博士

〔職歴〕

昭和52年9月 大阪府立成人病センター情報企画室技術吏員

昭和56年4月 神戸商科大学商経学部管理科学科講師

昭和57年10月 同助教授

平成2年10月 同教授

〔OR学会関係〕第18回 文献賞授賞 平成2年, 支部運営委員 昭和61~62年度・平成元年度~現在

〔著書等〕Resource Allocation Problems: Algorithmic Approaches (共著, MIT Press, 1988), 査読付論文50編, その他22編, 学会発表, 講演, 解説多数

加藤氏は, グラフ・ネットワーク, 離散型資源配分などの組合せ最適化問題をはじめとし, 最近では計算幾何学などの幅広い分野にわたる効率のよいアルゴリズムの設計に関する研究をされておられます。平成2年には, その成果の1つに対して本学会文献賞が授与されました。また, 本学会に対しては長年にわたり関西支部の運営に携わり, その発展に多大な貢献をされています。



紀 一誠 (きの いっせい) 氏

昭和18年6月27日生れ

〔現住所〕神奈川県相模原市相原

〔学歴〕昭和43年3月 東京
大学工学部計数工学科卒業

昭和63年 工学博士

〔職歴〕

昭和43年4月 日本電気(株)入社

昭和55年6月 同社中央研究所

平成元年7月 同社C&C情報研究所主管研究員

平成7年7月 同社C&C研究所主席研究員

〔OR学会関係〕理事(研究普及) 昭和61~62年度, 評議員 平成4~5年度・平成8年度, 理事(庶務) 平成5~6年度, 財政問題検討委員 平成5年度~現在



在, 論文誌編集委員 平成8年度, その他企業サロン企画委員, 会員対策委員等を歴任

〔著書等〕計算機システム性能解析の実際(共著, オーム社), 他5編(共著), 論文誌掲載論文10編, 国際学会講演8編, 国内講演多数

紀氏は, 日本電気(株)に入社以来, コンピュータシステムに関する性能評価技術の研究とその応用に関連する業務に長年携わってこられました。この間, 大規模で複雑なコンピュータシステムを待ち行列網理論を利用してモデル化を行うことにより, 簡単で的確なシステム性能評価を可能とする技法やツールの開発を行い, OR技法の適用と発展に務められ, 成果をあげてこられました。また, 本学会においても庶務理事, 研究普及理事, 評議員, 研究部会主査をはじめ各種委員を歴任され, 学会の運営・発展に多大な貢献をされています。

関口 恭毅 (せきぐち やすき) 氏

昭和19年11月7日生れ

〔現住所〕北海道札幌市手稲区前田

〔学歴〕昭和47年3月 北海道
大学大学院工学研究科精密
工学専攻博士課程修了

昭和47年 工学博士

〔職歴〕

昭和47年4月 (株)日立製作所入社

昭和50年9月 北海道大学経済学部助教授

昭和63年7月 同教授

この間, ペンシルバニア大学, ワシントン大学客員学術者, ロンドンビジネススクール客員教授などを歴任

〔OR学会関係〕第7回 事例研究奨励賞(ソフトウェア部門)授賞 平成4年, 理事(無任所) 昭和58~59年度, 評議員 平成2~3年度, 北海道支部長 平成3~4年度, その他支部幹事, 支部運営委員等を歴任
〔著書等〕情報システム設計・開発入門(近代科学社), 他分担執筆4冊, 査読論文13編, 研究論文・発表多数

関口氏は, 生産スケジューリングを順序づけ理論と最適化アルゴリズムの立場から研究し, 問題毎の個別理論を総合する統一的理論の構築や汎用的アプローチの開発に力を注いでこられました。近年はさらにORの計算環境整備の重要性を説き, OR研究者を支援する環境としての事例ベースシステムの有効性に注目しておられます。生産スケジューリング分野におけるそうした支援システム構築のための基礎技術として順序



づけ問題やその解法アルゴリズムの高度にモジュール化した記述方式を提案し、プロトタイプシステムを開発されました。また、本学会においては、支部役員、理事、評議員などを歴任し、その運営と発展に大きく貢献してこられました。

日比野 康文 (ひびの やすふみ) 氏

昭和11年 8月31日生れ

〔現住所〕愛知県名古屋市瑞穂区佐渡町

〔学歴〕昭和39年 3月 名古屋大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了

〔職歴〕

昭和39年 4月 名古屋大学工学部助手

昭和43年 4月 愛知学院大学商学部講師

昭和46年 11月 同助教授

平成 4年 4月 同経営学部

〔OR学会関係〕評議員 昭和57年度～平成 3年度、中部支部幹事 昭和49～50年度・昭和55～56年度、同支部運営委員 昭和51～62年度・平成 8年度、同支部副支部長 昭和63年度～平成元年度、同支部長 平成 2～3年度、同支部監事 平成 4～7年度

〔著書等〕統計学の基礎(共著, 実教出版), 線形数学入門(成文堂), 他著書 4冊, 論文等15編, 学会報告 5回

日比野氏は、「ORとは問題解決のための考え方とその方法」との認識のもとに、研究や大学での教育にあたられてこられました。かかる認識の上にならって理論的には勿論、実際的な問題にも興味をもたれ、最適化問題の理論面とシミュレーションによって問題を解決するという実際面の両方に努力をされておられます。

また、本学会においても、評議員や支部役員として活動され、特に支部運営には多大な貢献をされ、幹事、運営委員、副支部長、支部長と長年にわたって活躍、学会の運営と発展に貢献してこられました。

森戸 晋 (もりと すすむ) 氏

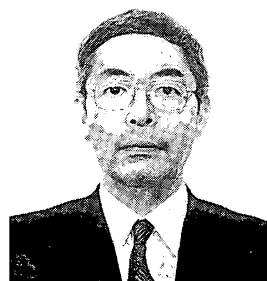
昭和21年 3月 7日生れ

〔現住所〕埼玉県所沢市並木

〔学歴〕昭和44年 早稲田大学工学部工業経営学科卒業

昭和51年 ケースウェスタンリザーブ大学 OR 学科 (Ph.D)

〔職歴〕



昭和51年 ケースウェスタンリザーブ大学 OR 学科助教授

昭和55年 筑波大学社会工学系助教授

昭和58年 早稲田大学理工学部工業経営学科助教授

昭和60年 同教授

〔OR学会関係〕第 8 回 事例研究奨励賞授賞 昭和 63年, 研究普及委員 昭和58～60年度, 論文誌編集委員 昭和61年度～平成 7 年度, 評議員 昭和63年度～平成元年度・平成 4～5 年度・平成 8 年度, 理事 (研究普及) 平成 5～6 年度, 表彰委員 平成 6 年度～現在, その他 OR 事典編集委員, OR 基本課題検討委員等を歴任

〔著書等〕オペレーションズ・リサーチ I, II (共著, 朝倉書店, 1991, 1989), SLAM IIによるシステム・シミュレーション入門(共著, 共立出版), 整数計画法と組合せ最適化 (共著, 日科技連出版社, 1982) 他共著書 4 冊, 編書 1 冊, 査読付論文21編, その他論文・解説・発表多数

森戸氏は、ORの一層の発展のためには理論と実践の橋渡しが不可欠との信念に基づき、分散型シミュレーションや組合せ最適化の技法と、スケジューリング等の生産システムを中心に、ORの適用と手法の開発に力を注いでこられました。研究では、一貫して実務家の目から問題を見るというスタンスに立ち、最近ではFMSのスケジューリングやロジスティクス計画等の実在する問題に対して、モデル化、技法開発、計算、実施/実証という一連のプロセスを視野に入れた研究に取り組んでおられます。1994年夏には、本学会システム・シミュレーション研究グループ(当時)を中心に、アジアではじめて分散系シミュレーションの国際シンポジウム、New Directions in Simulation for Manufacturing and Communicationsを企画・開催し、その中心的役割を果たされました。また、本学会の運営・発展にも各種委員、理事、評議員として多大な貢献をしてこられました。

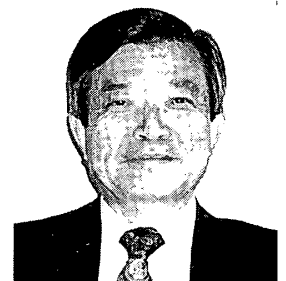
山本 正明 (やまもと まさあき) 氏

昭和 5年 8月30日生れ

〔現住所〕東京都立川市羽衣町

〔学歴〕昭和29年 3月 東京大学工学部応用物理学科卒業

昭和41年 3月 慶応義塾大学大学院工学研究科修士課程修了



〔職歴〕

昭和29年4月 川崎製鉄(株)入社

昭和29年8月 中野伸銅(株)入社

昭和41年4月 法政大学工学部専任講師

昭和43年4月 同助教授

昭和47年4月 同教授

この間、バドュー大学、バーミンガム大学、ラフバラ大学客員研究員、東京農工大学非常勤講師などを歴任

〔OR学会関係〕理事(会計) 昭和51~52年度, 理事

(無任所) 昭和59~60年度, 評議員 昭和61~62年

度, 監事 平成2~3年度

〔著書等〕経営工学概論(共著, 朝倉書店), IEハンド



研究部会報告

●ファイナンスのOR●

・第19回

日時: 6月22日(土) 14:00~17:00

出席者: 20名

場所: 東京工業大学百年記念館2F 第1会議室

テーマと講師: (1)「来るべき信用リスクマネジメントのビジョン」 若杉敬明(東京大学経済学部),

佐々木正信(富士通システム総研)

金融機関の信用リスク管理モデルを開発し, 既存のデータを用いてモデルの効果を示した。そして, グループ間の相関を考慮して貸出配分を調整したり, グループ間を工夫することにより, リスクが軽減できることを示した。

(2)「期待対数基準によるポートフォリオ選択」

石島 博, 古川浩一(東京工業大学)

期待対数基準によりポートフォリオ選択を行う場合の種々の優れた性質を調べた。そして, 日経225銘柄のうち, 214銘柄のヒストリカルデータ(月次収益率)を用いた実証分析を行った。実務上全く問題のない速さで大規模な問題を解くことができ, 日経インデックスに比べて良いパフォーマンスを示した。

・第20回

日時: 7月27日(土) 14:00~17:00

出席者: 24名

場所: 東京工業大学百年記念館2F 第1会議室

ブック(共訳, 日本能率協会), 他研究論文28編, 学会発表, 解説等多数

山本氏は, 生産管理における諸問題を主としてORの立場から取り上げ, これを解決するための研究に取り組んでこられました。特に, ジョブショップ問題の解決は氏の一貫した研究テーマで, スケジュール探索の効率化を求めて多くのアプローチを提案しております。近年は生産工場のシミュレーション・モデルの構築により各種生産管理システムの動特性の解析を行い, システム設計の改善を試みておられます。また, 本学会の運営に関しても理事, 監事を歴任され多大な貢献をしてこられました。

テーマと講師: (1)「CYCLES & CHAOS <長期国債先物価格の変動分析>」

江田 稔(国際証券債券企画部)

国債の変動構造について分析した。長期国債スポットレートや先物価格に対し, 高速フーリエ変換による波動分析を行った。フィルター取引ルールに基づいた長期国債先物売買による損益の計測も行った。そして, 長期国債スポットレートの変動にはカオス性が観測された。

(2)「上下制限のある金利モデルの研究」

白川 浩(東京工業大学), Freddy Delbaen (ETH Zurich)

金利に上下限の制約を付けた金利過程を示し, その基本的性質を検討した。割引債の解析的評価を行い, さらにその近似評価や上下限の評価法も示した。そして, 数値計算によるオプション評価方法についても検討し, 最後に簡単な数値例も示した。

●ファジィ動的計画法●

日時: 7月22日(月) 18:00~20:00

場所: EDCビル会議室

テーマと講師: 「意思決定と在庫過程」

劉宝碇(中国科学技術大学院)

意思決定過程においては, 行動を評価する測度を必要とする。この測度は決定基準と呼ばれ, 数学モデルにおいては目的関数によって表現される。数値計画法において, 目的関数は完全に既知であると仮定される。しかし現実にはこれは明白ではない。

本研究では多段階決定過程, 特に在庫過程と貯水池運用に経済的, 確率的, ファジィ基準モデルの導入を試みた。